

がんサバイバーの リスクアセスメントとがん予防

がん治療成績の向上に伴い、がんサバイバーの方が増え、治療後の療養生活における課題も複雑になってきています。このような課題を解決する方法の1つとして、がんサバイバーの社会的背景、治療内容、病勢、対処行動、就労、生活習慣などの臨床データ(ビッグデータ)をもとに、リスクアセスメントや2次がん予防の方略を検討することが必要となります。

このセミナーでは大阪医科薬科大学 医学研究支援センター 医療統計室 室長・准教授の伊藤 ゆり先生をお招きして、臨床データベースの活用方法、がん治療後のモニタリング、二次がん予防などについてご講演いただき、臨床データに基づくリスクアセスメントおよび看護のあり方を考えたいと思います。

日時： **第1回 11月21日(火) 18:00~19:30**

第2回 12月19日(火) 18:00~19:30

※1回目の講義をもとに、2回目の演習を行う予定です。

2日間参加を前提としてお申込みください。

場所：兵庫県立大学 看護学研究科遠隔講義室(Zoom)

※アクセス先(URL とパスワード)は、以下のサイトにてお申し込みをいただいた方にメールでご連絡いたします。

対象：がん看護に携わる看護師、専門・認定看護師、
CNS コース大学院生、修了生、教員(先着 80 名)

講師：**伊藤 ゆり** 先生

大阪医科薬科大学 医学研究支援センター 医療統計室
室長・准教授

無料

■お申し込み先(事前申し込みとなります)

以下へアクセスの上、必要事項(氏名、所属、連絡先等)を、**2023年11月13日(月)**までにご登録ください。

<http://www.apnhyogo.net/seminar2/>

※登録完了次第、折り返しアクセス先など詳細をご連絡いたします。スマートフォンなどからお申し込みの場合、PC からのメール受信ができる設定にしておいてください。また定員に達し次第お申し込みを締め切らせていただくことがありますのでご了承ください。

—主 催—

兵庫県立大学大学院看護学研究科
次世代のがんプロフェッショナル養成プラン(責任者:川崎 優子)



■講師紹介

伊藤 ゆり(いとう ゆり)先生

2007年から大阪府立成人病センター調査部のリサーチ・レジデント、2010年から同センターがん予防情報センター疫学予防課研究員、2015年にはその主任研究員を経て、2018年より大阪医科薬科大学 医学研究支援センター 医療統計室の室長・准教授として活躍されておられます。多くの賞も受賞されておられ、最近では2022年1月に第32回日本疫学学会学術総会にて奨励賞を受賞されておられます。



専門分野

保健統計・疫学、がん登録・がん検診、健康格差、データベース研究

研究テーマ

1. がん患者の生存解析
2. がん罹患率・死亡率・生存率のトレンド解析
3. がん統計資料に基づくがん対策の評価
4. 公的統計を用いた健康格差指標のモニタリング

■講演内容

第1回

がんサバイバーシップの国内外の研究について概要を紹介し、今後、本邦で必要となるがんサバイバーシップの研究の課題について整理、どのようなデータを用いて、どのような研究デザインで実施可能かについて紹介します。

第2回

第1回の講義を受けて参加者のリサーチクエストをまとめ、実際の研究を進めていく上でどのようなデータをどう評価し、どのような分析手法を適用すべきかなどをディスカッションします。

<カバーする内容>

- ・がんサバイバーシップの疫学
- ・がんの晩期合併症
- ・がんサバイバーシップ研究に活用するデータベース
- ・二次がん予防
- ・がん患者の苦痛のスクリーニング
- ・がんサバイバーシップにおける健康格差

連絡先:兵庫県立大学看護学部内 がんプロ事務局

兵庫県明石市北王子町13番71号

TEL:078-925-0860 FAX:078-925-0858

E-mail:ganpro29-jim@cnas.u-hyogo.ac.jp



兵庫県立大学 大学院 看護学研究科

College of Nursing Art and Science, University of Hyogo